第 11 回 2025 年デフリンピック大会に係る大会準備連携会議
(議事概要)

1 開催日時

令和 7 年 3 月 26 日 (水曜日) 10 時 00 分から 11 時 00 分まで

2 開催場所

東京都庁第一本庁舎 42 階北塔 特別会議室 B

3 構成員等

○構成員

一般財団法人全日本ろうあ連盟	久松 三二	常任理事・事務局長
東京都	渡邊 知秀	生活文化スポーツ局次長
スポーツ庁	小川 哲史	参事官 (国際担当)
公益財団法人日本オリンピック委員会	星 香里	常務理事
公益財団法人日本パラスポーツ協会	藤原 正樹	常務理事
弁護士	三好 豊	(オンライン)
公認会計士	中村友理香	(オンライン)

○事務局

一般財団法人全日本ろうあ連盟
東京都

4 要旨

【挨拶】

○全日本ろうあ連盟 久松事務局長

- ・本日は、お忙しいところ、第 11 回 2025 年デフリンピック大会開催に係る大会準備連携会議にご出席いただき、感謝申し上げます。
- ・私から、一言、ご挨拶を申し上げます。
- ・デフリンピック大会のメインカラーがさくら色となっております。
- ・今桜の季節が始まるころである。これから 11 月の本番を迎えられるように、桜にちなんで様々な企画を進め、ニュース等でも取り上げていただき、PR をしているところである。
- ・デフリンピックに参加する選手、候補選手がいる自治体から、サポートに関する相談が寄せられており、大変嬉しいことである。
- ・ここにお集まりの皆様にご支援いただき、改めて感謝申し上げます。
- ・昨年 11 月の第 9 回会議では、「デフリンピック・フェスティバル開催について」、「ボラ

ンティアの募集について」、「大会1年前取組」及び「大会準備状況」等について、また12月の第10回会議では、書面開催にて、「大会規模（計画額）の収入について」及び「開閉会式」について皆様にご確認をいただいた。

- ・今回は、「デフリンピック・フェスティバルの開催」、「ボランティアについて」、「令和6年度デフリンピック気運醸成の都の主な取組」等について、順次ご説明をさせていただきます。
- ・なお、お手元に配布の名簿にある通り、スポーツ庁の柿澤参事官の異動に伴い、後任として、小川哲史参事官が新たに委員にご就任いただく運びとなったので、ご報告させていただきます。

小川委員、ご挨拶をお願いします。

○スポーツ庁 小川参事官

- ・1月に柿澤参事官の後任として、スポーツ庁担当参事官として着任いたしました小川と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

○全日本ろうあ連盟 久松事務局長

- ・皆様、本日も忌憚のないご意見よろしくお願ひしたい。

【資料説明】

○デフリンピック・フェスティバル開催について（事務局）

- ・「デフリンピック・フェスティバル開催について」、デフリンピック運営委員会事務局より説明する。
- ・第8回運営委員会において、開催箇所を全国8か所(9回)から1か所増やし、全9カ所(10回)で開催することを承認いただいた。
- ・その後、石川県から助成金10万円の予算内で追加の開催要望があり、予算の範囲内であり事業趣旨と合致するため、これを認めた。その結果、合計で9カ所11回の開催となった。
- ・今年度は、大規模集客施設でのイベント実施や自治体または民間の大規模集客イベントに組み入れる形で実施したことから、延べ約26,000名にデフリンピックの周知ができたことは効果的であった。
- ・第8回運営委員会以降、開催した4カ所について報告する。
- ・京都市では12月14日と15日に、かたおかアリーナ京都で開催されたバスケットボールの試合の場で、ミニ手話体験コーナー、デフリンピック出場選手による質疑応答コーナー、啓発チラシ配布や啓発動画視聴等により、約8,200名にデフリンピックについて知っていただく機会となった。
- ・石川県では12月1日にかほく市、2月11日(火・祝)に白山市で開催し、いずれもプロ卓球チームの試合や大規模集客施設で行われたパラスポーツフォーラムの場で実施したことにより、2か所合わせて約130名にデフリンピックについて周知啓発を行うことができた。

- ・名古屋市では、2月22日に愛知県主催のあいちパラスポPARKで行い、約250名にデフリンピックについて周知啓発を行うことができた。
- ・今後、主催団体から報告書、決算書、領収書等の提出を受け、審査を行うとともに、実施状況を踏まえ、来年度の気運醸成の推進に活かしていく。
- ・報告は以上である。

○ボランティアについて（東京都）

- ・競技会場等で活動いただく約3千人のボランティアを11月15日から1月31日までの期間で募集し、1万8,903人の方からご応募いただいた。
- ・多くの方に応募いただいたことや活動内容の精査を踏まえ、当選人数を3,500人に設定し、希望する活動場所等を踏まえ、抽選を実施した。
- ・「年代別」、「性別」の内訳はご覧の通り。
- ・「スキルを有する方」のうち、手話でコミュニケーションが可能な方は1,641人、さらに、国際手話でコミュニケーションが可能な方は447人いる。英語で円滑なコミュニケーションが可能な方は641人いる。
- ・今回抽選でご希望に沿えない結果となってしまった方も含め、ご応募いただいた皆様に向けて、今後も大会の気運を盛り上げ、一緒に大会を応援していただけるような取組みを検討していく。
- ・次に、ボランティアとして活動いただく方々の配置について。配置の詳細は、今後デフリンピック準備運営本部で決定していくが、配置の際の考え方として、障害のあるなしに関わらず、多様な人々が協働しながら活躍いただける体制を構築していくこと、活動内容やボランティアが有するスキル、経験等に応じて、バランスよく配置していくこととしている。
- ・主な活動にもあるとおり、スキルを活かした活動もあればスキルがなくてもできる活動など、様々なポストを用意している。
- ・説明は以上となる。

○令和6年度デフリンピック気運醸成の都の主な取組について（東京都）

- ・都では、昨年度に引き続き、多くの都民に大会に参画してもらえよう、様々な機会を捉えて大会のPRを実施してきた。結果として、最新の調査で、デフリンピックの都内認知度が14.8%から39.0%にまで上昇した。
- ・また、都内にとどまらず、全国においても様々な大会PRを実施してきた。
- ・まず一つ目「切れ目のない大会気運の醸成」であるが、デフリンピックの名前が継続的に報道等で取り上げられるよう、様々な取組を行ってきた。
- ・具体的には、6月の大会公式マスコットの決定をはじめ、7月の大会開催500日前には都内全小学校の4～6年生に「学ぼう！デフリンピック」を配布し、特別授業を実施した。
- ・また、9月には、全国の小中高生を対象にメダルデザインのオンライン投票を実施し、約8万人の方に投票いただいた。
- ・大会1年前となる11月には、デフアスリートや応援アンバサダー等を招いてイベントを

実施した。

- ・次に、「多様な媒体を活用した大会PR」である。イベントの開催だけではなく、様々な方向から大会が多くの人たちの目に触れるよう、インターネットや自治体と連携して広報活動を展開してきた。
 - ・SNSを活用した応援メッセージの一斉配信や検索サイトでのバナー広告の掲出などインターネットを活用した取組を展開してきた。
 - ・また、都内区市町村の広報誌において大会情報を発信していただいたほか、年間を通じて、イベントにPRブースを出展している。
 - ・そして、最後に、「都外での大会PR」として、九都県市首脳会議や鳥取県など都外自治体での大会PRを実施したほか、スポーツ庁を通じて、「学ぼう！デフリンピック」やメダルデザイン投票を全国に周知した。
- また、今年度佐賀県で開催された国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会、ねんりんピックにおいて、横断幕等を掲出するほか、都外自治体にバッジやポスター等を全国に配布している。
- ・大会本番となる令和7年度は、節目の機会を捉えた取組や大会直前の広報など様々な取組を展開し、より多くの方に会場で選手を応援していただけるよう、大会への関心を高めていく。
 - ・説明は以上である。

○「ビジョン2025 アクションブック バージョンアップ」について（東京都）

- ・ご説明する。
- ・資料の上段が本書策定の背景や位置付けとなる。2021年に開催された東京2020大会では、コロナ禍という困難な中であっても、スポーツの素晴らしさを改めて共有し、サステナブルな社会への道筋を示すとともに、ボランティア文化が根付く転機となるなど、多くのレガシーも生まれた。
- ・こうしたレガシーを、今年開催される世界陸上・デフリンピックにおいてもしっかりと受け継ぎ、明るい未来への歩みを加速させるため、都は、「ビジョン2025」や「アクションブック」を策定し、大会運営組織などとも連携して様々な取組を進めているところである。
- ・今回のバージョンアップは、都の来年度予算編成も踏まえ、取組の充実や大会後のレガシーの具体化を図ったものである。
- ・資料右下であるが、「ビジョン2025」で示した「全ての人が輝くインクルーシブな街・東京」の実現に向けた考え方の全体像が、「3つのコンセプト」と「スポーツ+（プラス）10のアクション」となっている。主な内容は次のページでご説明する。
- ・まず、資料左側、両大会を通じたスポーツの取組である「推しスポーツProject」。都民一人ひとりの好みや特性に合ったスポーツを見つけてもらうため、下に記載の「キッズスポーツプログラム」、「健康長寿プログラム」、「Let's enjoy sports！」の3つの取組を展開するものである。
- ・次に、中央から右側に記載の、「10のアクション」における主な取組と目指す姿について

て。

- ・一番上の「みんなが つながる」では、大会時にユニバーサルコミュニケーション技術の活用などに取り組み、レガシーとして身近な環境での情報保障の充実などを掲げている。
- ・二つ下の「こどもたちが 夢をみる」では、両大会での競技観戦やシンボルの制作といった子供たちの参画に組み、そこで得たかけがえのない経験をその後の健やかな成長につなげていくこととしている。
- ・その下の「未来へ つなぐ」では、両大会で環境配慮や共生社会に関する取組を進め、持続可能な社会や共生社会の実現につなげていくこととしている。
- ・説明は以上である。

○競技会場・競技日程について（東京都スポーツ文化事業団）

- ・既に2月14日に公表しているが、あらためて競技会場・競技日程についてご説明する。
- ・競技会場であるが、これまでの既出の会場に、新たに陸上競技のマラソンの会場である「東京高速道路（KK線）及び首都高速道路高速八重洲線の一部」及びハンマー投げの会場である「大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場」が決まったため、追加をしている。
- ・オリエンテーリングの会場についても、日比谷公園周辺も競技会場として使用するため、日比谷エリアとして追加した。
- ・また、陸上競技の練習を「大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場」、バレーボール、バスケットボールの練習を「国立オリンピック記念青少年総合センタースポーツ棟」で行うこととし、練習会場として追加した。

なお、その他の競技は、競技会場と同じ会場を練習会場とする。

- ・次に、マラソン会場についてであるが、資料にあるとおり、東京高速道路（KK線）及び首都高速道路高速八重洲線の一部を使用した周回コースで、令和7年11月25日（火曜日）に実施することとなった。
- ・1周5km（片道2.5km）のコースを8周するコースを想定している。
なお、スタート・ゴール地点については、今後調整していく予定である。
- ・この場所でマラソンを開催するのは初めてのことであり、多くの方に興味をもってもらえると考えます。
- ・最後に、競技日程であるが、選手の予備登録の結果を踏まえ、暫定版として更新した競技日程をあわせて公表している。
- ・ご説明は以上である。

○協賛企業の状況等について（東京都スポーツ文化事業団）

- ・協賛企業については、資料のとおり、3月14日時点で大会全体を支援するトータルサポートメンバー33社、特定の競技を支援するゲームズサポートメンバー9社、合計42件、40社となっている。

- ・ご説明は以上である。

○キャッシュレス募金について（東京都スポーツ文化事業団）

- ・2月21日よりスマートフォン等からより便利に、気軽に大会に参画いただける仕組みとして、Vポイント及び「d払い®」、また、3月17日より新たに「amazon pay」によるキャッシュレス募金の受付を開始したところである。
- ・ご説明は以上である。

○さくらキャンペーンについて（東京都スポーツ文化事業団）

- ・東京2025デフリンピックの大会メインカラーは桜色となっている。
- ・3月の桜の花が咲く季節を捉え、東京2025デフリンピックのさらなる認知向上に向けて、視覚的な広報プロモーションを一体的に実施している。
- ・キャンペーン初日の3月17日には、ソフトバンク渋谷にてメディア向けのキックオフイベントを開催した。
- ・本大会での活躍が期待されるアスリートをお迎えし、本キャンペーンに対する期待感や大会の意気込みについてもコメントいただいた。
- ・当日は、11社のメディアから取材を受け、複数の媒体で掲載いただいている。
- ・期間中の取組としては、桜色のライトアップ、ポスターの掲出、記事掲載、PR動画の放映などを実施。また、XやInstagramで選手たちへの応援メッセージやデフリンピックへの想いを集めている。
- ・実施に当たっては協賛企業や関係自治体等にもご協力いただき、関係者一体となって、大会の成功に向けて取り組んでおり、大会成功につなげていきたい。
- ・ご説明は以上である。

【意見交換】

○東京都 渡邊次長（清水部長代読）

- ・いよいよ大会当該年を迎えた。
- ・東京都では、関係機関の皆様の協力も得ながら、大会500日前や1年前の節目のタイミングなど、様々な機会を捉えて大会のPRを進めてきた。
- ・また、スポーツ庁から全国の自治体へメダルデザインの投票を呼びかけていただき、全国の小中高生から8万票を超える投票があった。
- ・昨年11月時点の都内における大会の認知度は14.8%から39%へと急速に上昇した。大会ボランティアに募集定員の6倍を超える応募があったことから、着実に大会への期待や気運が高まっているものと考えている。

- ・引き続き、切れ目のないPRを進め、大会本番では、多くの方に各国から集まるデフアスリートたちの活躍を間近で観戦し、応援していただけるようにしたい。
- ・先日公表した「ビジョン 2025 アクションブック バージョンアップ」に記載している、ユニバーサルコミュニケーションの促進や子供たちの参画など、東京の発展や都民の参画のための様々な取組を多面的に展開していく。
- ・大会を通じて、デフスポーツの振興や共生社会につながるレガシーをしっかりと残せるよう取り組んでいく。
- ・いよいよ来月には大会 200 日前を迎える。
- ・引き続き、皆様のご助言、ご支援を頂きながら、着実に準備運営を進めていきたい。ご協力をお願いします。

○スポーツ庁 小川参事官

- ・本日様々な報告をいただいた。いよいよ大会まで残りわずかとなり、着実に準備を進められている。関係者の皆様の尽力に感謝申し上げます。
- ・スポーツ庁としても、気運醸成の様々な取組を、引き続き実施してまいりたい。
- ・直近の話題として、文部科学省内にてデフアスリートも参加いただき「デフリンピック勉強会」をオンラインにて開催した。スポーツ庁のみならず、文部科学省全体で多くの職員の参加があった。
- ・スポーツ庁として、今後も大会に向けしっかり取り組んでまいりたい。

○JOC 星常務理事

- ・ご説明お礼申し上げます。
- ・着実に準備が進んでおり安心している。
- ・ボランティアについて、募集の約 6 倍の応募があったとのこと、大変素晴らしいことである。東京 2020 大会のレガシーが根付いており、スポーツボランティアに対する熱が収まらないどころかもっと盛り上がっている印象を受ける。
- ・抽選に漏れた方に対しても参画を検討いただけているとのこと、ぜひ多くの方に観戦いただき、アスリートの背中を押すような応援をしていただくことは重要である。アスリートが目で見えてわかる応援等工夫いただき、大会本番で力を発揮できるようにお願いしたい。
- ・気運醸成の取組が成果を上げ、地方においても話題になっており全国的な広がりになっている印象である。
- ・マラソンコースについて、上手にPRをしていただき、観戦についても工夫をしていただけると嬉しい。

○JPSA 藤原常務理事

- ・ご説明お礼申し上げます。
- ・ボランティアに多くの方に応募いただき、今までの皆様のご尽力に改めて感謝申し上げ

げる。

- ・認知度について、実体験としても認知度が上がっている印象である。
- ・都内の認知度 39%は高い数字ではあるが、11月の大会までに、50%以上さらに高い数字になるよう、みんなで頑張っていければと考える。
- ・2つ質問がある。
- ・1つ目は、入場料について、無料だということは公表しているか。どのようなスケジュールで進めていくのか？
- ・2つ目は、聴覚障害の方をサポートするような日本のデジタル技術について、大会での活用や見本市のようにデモンストレーションも検討したいという話が以前あったと思うが、どのような状況か？

○東京都スポーツ文化事業団

- ・入場料については、2月14日のマラソン会場の発表と同時に入場無料と公表させていただいた。ただ、ご指摘のとおり、浸透していないところがあるので、今後、多くの方にご理解いただき、観戦にお越しいただけるよう取り組んでいく。
- ・入場管理や観戦スペースについては、会場運営事業者と検討中である。検討が進めば、より丁寧なお知らせができるかと思われるが、まずは入場無料であることの浸透について、積極的に取り組んでいく。

○東京都

- ・デジタル技術については、これまでも様々なイベント、会議等で活用している。
- ・同時に、新しいデジタル技術についても、開発促進し、大会に向け準備している。
- ・大会中、実際に運営の中でデジタル技術の活用を検討している。
- ・また、新しい技術の中で、まだ大会運営時の活用に至らない技術については、開発促進のための展示を大会期間中開催し、多くの方に周知できるような取組を検討している。

○三好弁護士

- ・丁寧なご説明お礼申し上げます。
- ・11月の大会に向けて、着実に準備ができていることを理解した。
- ・ガバナンス・コンプライアンスについて、1点コメントする。
今回、キャッシュレス募金として、新たに Amazon Pay での受付を開始したとのことだが、改めて大会公式サイト上の募金のページを確認すると、募集要綱の掲載がない。
募金においては、使途や、募金を受けられない場合などを定めた要綱に従って実施されるものである。
公式サイトでは、募金と寄附でページが分かれており、寄附のページでは、募集要綱が掲載されているが、募金のページでは掲載されていない。
募金のページでも、要綱を掲載されたほうがよいのではないかと。

○東京都スポーツ文化事業団

- ・大会公式サイトの記事が不十分なところについて、早急に改善する。

○中村公認会計士

- ・ご説明お礼申し上げます。
- ・順調に協賛企業が増えており安心した。
- ・デフリンピック・フェスティバルについて、他のイベントとタイアップで開催され多くの方へ周知ができ、良い取組であった。
- ・ボランティアの応募が多く、周知が確実に広がっている。
- ・ボランティアに落選された方についても、大会開催時まで応援する気持ちを維持できるような試みを継続してほしい。
- ・ボランティア研修について、オンラインで参加できる体制になっており、応募のハードルが低くなり、結果応募者が多くなった契機と考える。
- ・今後開催される取り組みについても、参加しやすい環境を整えていくことが肝要である。
- ・入場無料について、会場の広さに対して、多くの観戦者が訪れることもあるかと思われるため、会場運営事業者と事故等ないよう誘導等含め検討のうえ、今後更なる周知を行っていただきたい。
- ・キャッシュレス募金について、本日の資料によると、寄附金控除の対象にならないようである。寄附金受領書を受けられないとのことで、通常の寄附と取扱いが違うところを整理して、募集されるとよい。

○全日本ろうあ連盟 久松事務局長

- ・デフリンピック応援隊のマスコットが、54に拡大したことを報告する。

【意見交換総括】

○事務局

- ・「デフリンピック・フェスティバル開催」等の気運醸成に関する取組や、「ボランティア」等の大会準備状況について、皆様にご確認を頂くことができた。
- ・次回連携会議日程については、具体的な開催時期・開催方法については改めて事務局から皆様にご連絡を差し上げる。
- ・プレスからの問い合わせは事務局にて一括対応する。個別の問い合わせがあれば事務局にご相談をいただきたい。

○全日本ろうあ連盟 久松事務局長

- ・本日は皆様からいただいた貴重なご意見を参考に、引き続き大会の成功に向けて努力していきたい。お忙しい中ご参加いただきありがとうございました。これを持ちまして、会議を終了させていただく。皆様ご協力ありがとうございました。